

九州ルーテル学院大学

中期目標と

第2期中期目標・中期計画（ビジョン2020）
第2期（2020～2029）

Luther Vision2020

～地域に夢がある、世界に学びがある、夢と学びをつなぐ大学を目指して～

2020年4月



九州ルーテル学院大学
KYUSHU LUTHERAN COLLEGE

INDEX

巻頭言

0 ビジョンと中期計画の策定に当たって

0-1 ルーテルビジョン2020（中期目標・計画の構成要素と推進体制）

0-2 ルーテルビジョン2020の中期計画（85計画の構成）

I ビジョンI（人間形成：菅法師の精神に基づいて社会や人を先導する人間の育成）

I-1-1 九州ルーテル学院の建学の精神・理念

I-1-2 建学の精神・理念の具現化

I-2 大学・学部・研究科等の将来像

I-2-1 人文学部の育成する具体的な人材像

I-2-2 人文学研究科の育成する具体的な人材像

II ビジョンII（教育： 感恩奉仕の精神を受け継ぎ、グローバルizmをもって行動できる人材の育成）

II-1 教育に関する目標

II-2 教育改革の具体策と実現・実行

II-3 特色ある適切な教育課程と学修成果の適当な把握・活用（基準4：教育課程・学習成果）

II-3-1 共通教育

II-3-2 専門教育

II-3-2（1）人文学科キャリアイングリッシュ専攻

II-3-2（2）人文学科こども専攻保育コース

II-3-2（3）人文学科こども専攻児童教育コース

II-3-3（1）心理臨床学科心理学コース

II-3-3（2）心理臨床学科特別支援教育コース

II-3-3（3）心理臨床学科精神保健福祉コース

II-3-4 人文学研究科

III ビジョンIII（学生の受入れ：感恩奉仕の理念に共鳴し、“think globally, act locally”を志す学生を支援）

III-1 入学者選抜制度における中期戦略の策定

III-2 入学定員確保策

IV ビジョンIV（学生支援：退学率0%、学修・生活満足率100%、就職・進学率100%、学生の迷いとやる気に寄り添う支援）

IV-1 キャリア支援・就職支援

IV-2 障がいのある学生への支援

IV-3 学修支援・生活支援

V ビジョンV（研究：各研究組織の研究力を活用し、多様な視点から地域社会にアプローチする特色ある研究を推進）

V-1 学科等の垣根を越えた研究の推進による新たな拠点の形成

V-2 学内外での共同研究の推進

V-3 研究支援の強化

VI ビジョンVI（国際感覚：九州ルーテル学院大学の特色を生かして異文化を理解し、国際的視野で“くまもと”に貢献できる人材を育成）

VI-1 グローバルセンターの活性化

VI-2 学生の派遣

VI-3 外国人留学生の受入れ

VII ビジョンVII（地域貢献：九州ルーテル学院大学の知的・人的資源を再整備して“くまもと”の課題解決に協力し熊本地域の発展に貢献）

VII-1 地域社会の知的基盤としての地域貢献活動の充実

VII-2 学生（学生団体（サークル）を含む）及び教職員による交流や支援の活性化

VIII ビジョンVIII（経営基盤：持続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築）

VIII-1 大学運営

VIII-1-1 経営ガバナンスの強化策（教員・教員組織）

VIII-1-2 経営ガバナンスの強化策（事務部門）

VIII-1-3 経営ガバナンスの強化策（中期目標・中期計画実現のためのPDCA体制）

VIII-1-4 経営ガバナンスの強化策（自己点検・評価及び当該状況に係る情報の積極的な公開に関する目標）

VIII-1-5 経営ガバナンスの強化策（ルーテルブランドの確立）

VIII-2 教育研究組織

VIII-2-1 教育研究の実施体制

VIII-2-2 付置施設等の整備・充実

VIII-3 大学運営・財務

VIII-3-1 財政基盤の安定化

VIII-3-2 寄付金その他の自己収入の増加

VIII-3-3 業務運営の改善・効率化による経費の抑制

VIII-4 教育研究環境等（教育研究環境整備計画）

VIII-4-1 施設・設備の整備・活用等

VIII-5 男女共同参画の推進

VIII-6 危機管理・法令順守

VIII-6-1 危機管理体制の整備と的確なリスク管理・労務管理の実施

VIII-6-2 安全管理

【参考】中期目標・計画、年度計画の策定・評価の方針

巻頭言

九州ルーテル学院大学は、創立時よりキリスト教精神に基づくグローバルな視野とボランティア精神を兼ね備えた人材の育成をめざして教育を行い、多様な分野に多くの卒業生を送り出してきました。

新型コロナウイルス感染症の世界規模での感染拡大という厳しい状況の中で迎えた2020年度ではありますが、本学にとって第Ⅰ期生の卒業から20年目となるこの記念の年に、「地域に夢がある。世界に学びがある。夢と学びをつなぐ大学をめざして」をテーマに新たな思いをもって第2期中期計画がスタートすることは意義深く、また、コロナ禍にあっても未来に向かい希望をもって前進するための推進力となるものです。

この中期計画の策定にあたっては、第1期中期計画の総括をとおして本学がこれまで築いてきた実績や課題を再確認し、本学の特色をさらに充実し発展させるためのより有効で具体的な方策について検討しました。また、変化する時代や地域のニーズに応えることのできる本学の新しい可能性も探りました。

この中期計画達成のためには、新たに示されたビジョンを全構成員が共有し主体的に参画する不断の努力が欠かせません。新たな10年も、少人数教育という本学の強みを大いに発揮し、「多様な視点をもって考え、他者のために行動する人の育成」という本学の使命に力強く取り組んでいきたいと思ひます。

学長 広渡 純子

0. 第2期ビジョンと中期計画の策定に当たって

ビジョン2020と中期計画の策定にあたり、私たちは、まず、本学の強みやよさとは何かを振り返り、それを計画に反映させることを意識しました。また、第一期ビジョンであるビジョン2014と中期計画を発展的に継承することを心がけました。さらに、中央教育審議会による2018年の答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」、大学基準協会による諸基準や私立大学ガバナンスコードなど、近年の教育政策の動向や、企業・地域社会のニーズ等に関する情報を収集し、本学の実態に即した将来像をイメージしました。そして、これらの視点を踏まえて、2019年度にビジョンの概要を示し、2020年度にはワーキンググループと各部署が協働してビジョンの精査と年度計画の作成に取り組みました。

本学は、2019年度に内部質保証推進会議を発足させ、内部質保証システムをより一層充実・強化しています。内部質保証推進会議が軸となり、各部署に属する一人ひとりの教職員が本計画の遂行に主体的に取り組むことによって、ビジョン2020は達成されます。本ビジョンの実現のためには、すべての教職員が、内部質保証に関わる情報を共有し、部署内で活発に議論したり、部署間での協議や連携を行ったりすることで、PDCAサイクルを機能させる必要があります。2029年を見据えながら、本学の魅力をより一層充実させ、それを地域社会にも発信できるよう、チームワークで本計画を着実に前進させていきたいと思ひます。

学長補佐（評価・点検担当）
石村華代

基本理念・教育目標

九州ルーテル学院の理念



—校章の意味— キリスト教精神「感恩奉仕」を基礎に全人格を磨く

学問の府を意味するペンをかたどった校章の中心には、ルター（ルーテル）紋章に刻まれている十字架の心を単純化した“赤い丸”が配されています。この一点こそが、学院の原点「霊育」でもあります。大学を巣立つ皆さんが「神様の恩恵に感謝し、神と人に仕え（奉仕する）＝感恩奉仕」に生きることこそが、九州ルーテル学院の理念であり、使命であると考えています。

建学の精神・理念・目的と育成する具体的な人材像

●建学の目的（学校法人九州ルーテル学院規則）

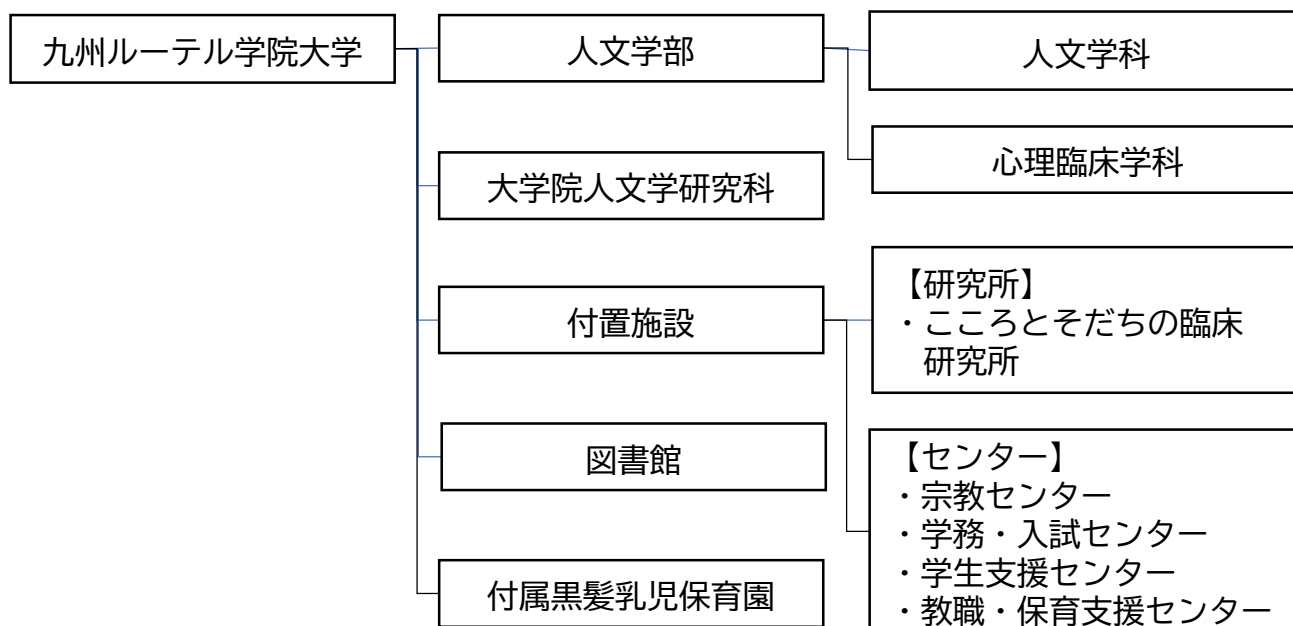
前文 「学校法人九州ルーテル学院」（以下「本法人又は本学院」という。）は、キリスト教の精神に基づく人格教育を行い、識見を高め、情操を養い、健全な身体をもって、進んで神と人ともに奉仕する有為な人に育成することを目的とする。
2 本法人は、「感恩奉仕」を校訓として掲げ、知育・徳育・体育、及びこれを支える霊育において、その教育実施に当たる。

◆中期目標・中期計画の期間

第2期中期計画期間は、2020（令和2）年4月1日から2029（令和12）年3月31日までとする。

◆教育研究組織

学部、研究科、付置施設等が毎年度計画を策定し、自己点検・評価を行い、内部質保証推進会議による進捗状況等の点検を経て、全学的に中期目標・中期計画を達成する。





ルーテルビジョン2020

感恩奉仕
Gratitude and Service

～地域に夢がある、世界に学びがある、夢と学びをつなぐ大学を目指して～
(第2期中期目標期間(2020～2029)における九州ルーテル学院大学の機能強化構想)

ルーテルビジョン2020(中期目標・計画の構成要素)



ルーテルビジョン2020の推進体制

1. 学長によるトップマネジメント

内部質保証推進会議における中期計画の進捗状況等のチェック

- ①副学長 中期計画の推進のための学内調整、関係委員会の審議の迅速化
- ②学長補佐 中期計画の着実な遂行のための助言

2. 内部質保証の方針等全学的な視点に立った学科(専攻・コースを含む。)、研究科、付置施設、事務部門単位での計画の実現



感恩奉仕
Gratitude and Service

ルーテルビジョン2020

～地域に夢がある、世界に学びがある、夢と学びをつなぐ大学を目指して～
(第2期中期目標期間(2020～2029)における九州ルーテル学院大学の機能強化構想)

ルーテルビジョン2020の中期計画

85計画

ビジョンⅠ(人間形成)：(7計画)

感恩奉仕の精神に基づいて社会や人を先導する人間の育成

ビジョンⅡ(教育)：(22計画)

感恩奉仕の精神を受け継ぎ、グローバルな視点をもって行動できる人材の育成

ビジョンⅢ(学生の受入れ)：(6計画)

感恩奉仕の理念に共鳴し、“think globally, act locally”を志す学生を応援

ビジョンⅣ(学生支援)：(6計画)

退学率0%、学修・生活満足度100%、就職・進学率100%、学生の迷いとやる気に寄り添う支援

ビジョンⅤ(研究)：(7計画)

各研究組織の研究力を強化し、多様な視点から地域社会にアプローチする特色ある研究を推進

ビジョンⅥ(国際感覚)：(5計画)

本学の特色を生かして異文化を理解し、グローバルな視野で“くまもと”に貢献できる人材の育成

ビジョンⅦ(地域貢献)：(5計画)

“利他共生の精神”の地域への発信

ビジョンⅧ(経営基盤)：(27計画)

持続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築(大学運営・財務・その他)

ビジョンⅠ（人間形成）： 感恩奉仕の精神に基づいて社会や人を先導する人間の育成

I-1 基本理念・目標

I-1-1 九州ルーテル学院の建学の精神・理念（2計画）

①建学の精神の浸透

九州ルーテル学院講座（仮称）を開設し、建学の精神に対する深い理解と実践に導く自校教育の取組を拡充する。

②キリスト教に関する教育研究活動や地域貢献の活性化

- ・宗教センターを中心に、礼拝を活性化し、キリスト教精神の理解につながる体験的な学びを拡充する。
- ・宗教センターが他部署と連携して、キリスト教行事（クリスマス、イースター等）と市民講座等の学事を融合させて、キリスト教精神に基づく本学独自の学びの風土を学生だけでなく地域にも展開する。

I-1-2 九州ルーテル学院大学の建学の精神・理念の具現化（2計画）

①本学の特色を発揮したボランティア活動の活性化

- ・「感恩奉仕」の精神をもって社会に貢献する人材を育成する。
- ・ボランティアセンターを中心に、学生や教職員によるボランティア活動を活性化し、キリスト教主義の大学としてのミッションを実践する。

②ボランティア活動の組織化

- ・建学の精神の具現化としてのボランティア活動を活性化するため、一元的に活動の支援を行う組織体制を整備する。

I-2 大学・学部（学科）・研究科等の将来像

I-2-1 人文学部の育成する具体的な人材像（2計画）

①将来の職業やスキルを意識した高い実務能力を備えた人材の育成

- ・学校教諭・保育士、公認心理師、精神保健福祉士、スクールソーシャルワーカー、英語・IT・ビジネス関連の免許・資格取得を積極的に支援する。

②SDGs（持続可能な開発目標）を世界の人々と共有する人材の育成

- ・地球の環境や平和、人権に関する課題に関心を持ち、自分のこととして考え、行動できる人材を育成する。

I-2-2 人文学研究科の育成する具体的な人材像（1計画）

①高度・広範な専門的・汎用的能力と実践的研究能力を備えた人材の育成

- ・高度・広範な専門的能力と高度の汎用的能力、職業社会で活用可能な実践的研究能力を備えた人材を育成する。

ビジョンⅡ（教育）：
感恩奉仕の精神を受け継ぎ、“グローカリズムをもって行動できる
人材の育成”

Ⅱ－１ 教育に関する目標（大学基準２：内部質保証）（３計画）

① 教学マネジメントシステムの確立

- ・ 学長のリーダーシップの下に、教学マネジメント（大学が教育目的を達成するために
行う管理運営であり、大学の内部質保証の確立に密接に関わる重要な営み）システム
を確立する。
- ・ 学生の学修目標及び卒業生に最低限備わっている能力の保証として機能するよう、卒
業認定・学位授与の方針（DP）を具体的かつ明確に設定する。
- ・ 授業科目・教育課程の編成に当たって、授業科目の過不足、各授業科目の相互関係、
履修順序等について検証を行う。
- ・ 学位プログラム共通の考え方、尺度（アセスメントプラン）に基づき、大学教育の成
果について点検・評価を行い、②から③の取組を大学全体、学位プログラム、授業科
目の各レベルで実施しつつ、全体として整合性を確保できているかを検証する。

② アセスメントの着実な実施と教学IR情報等の活用

- ・ アセスメントプランに即した各種アセスメントの実施とアセスメントデータの分析・
検証を行う。
- ・ 教学IR情報等を活用して、学修支援システムと生活支援システムの改善に取り組む。

③ 取組の着実な実施と社会に対する成果等の公表

- ・ 教育の質保証に必要な取組を着実に実施し、社会に対しわかりやすく説明する。

Ⅱ－２ 教育改革の具体策と実現・実行 (基準４：教育課程・学修成果) (7計画)

① 3つの方針（卒業認定・学位授与（DP）、教育課程編成・実施（CP）及び入学者受入れ（AP）の各方針）を通じた学修目標の具体化
・ 学生の学修目標及び卒業生に最低限備わっている能力の保証として機能するよう、3つの方針を絶えず検証する。

② ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動の充実
・ FDを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質・能力向上及び教員組織の改善・向上につなげる（人文学研究科を含む）。

③ 授業科目・教育課程の再編成
・ 明確な到達目標を有する個々の授業科目が学位プログラムを支える構造となるよう、体系的・組織的に教育課程を編成する。
・ 授業科目の過不足、各授業科目の相互関係、履修順序や履修要件について、定期的に検証を行う。
・ 単位の実質化の観点から、取得可能な免許・資格の見直し、授業科目の精選・統合、開講時期の調整等を通じてカリキュラムの改善を図る。
・ 現場や地域社会とのつながりを重視した学位プログラムを構築する。

④ 授業を通じた資質・能力の育成と授業方法の工夫（情報環境の整備を含む。）
・ 密度の濃いアクティブラーニングを推進するため、課題解決型学修、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り込んだ授業を拡充する。
・ 学生の問題解決能力を向上させるために、その能力を支える数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力を培う授業を展開する。
・ 学内Wi-Fi等の情報環境を整備し、KLC-Moodleを活用した大学の講義のオンデマンド受講、オープンソースの活用、ICTを活用した授業、Webポータルシステムの活用等の授業方法を開発する。

⑤ 入学前・卒業後のサポート体制の充実
・ プレカレッジ、入学前の課題等を通じて、入学予定者に対する学修支援を充実させる。また、入学予定者に対して入学後の学修等について周知する。
・ 卒業生に対する生涯学習・リカレント教育を展開する。

⑥ 教育・学修成果の可視化
・ 修学ポートフォリオ等を通じて、学生が自らの学習成果を自覚し、エビデンスとともに説明できるようにするとともに、DPの見直しを含む教育改善につなげるため、複数の情報を集約して学習成果・教育成果を把握・可視化する。

⑦ 成績評価の信頼性の確保
・ 学習成果・教育成果に関する情報を自発的・積極的に公表するため、成績評価の信頼性を確保する。

Ⅱ－３ 特色のある適切な教育課程と学修成果の適当な把握・活用 (基準４：教育課程・学習成果) (学科・専攻・コース・センター及び研究科)

Ⅱ－３－１ 共通教育 (２計画)

①共通教育科目の見直し・検証

- ・教務委員会に共通教育部会等を設置し、自然科学系科目、人権教育・主権者教育等の科目の開設等の不断の見直し、検証を行う。

②他大学等と連携した共通教育科目の充実(単位互換制度の創設を含む。)

- ・熊本大学教育統括管理運営機構附属数理科学総合教育センター等と連携して、統計学等の数理・データサイエンスに関する科目を拡充する。また、統計学等の数理・データサイエンスに関する科目のオンライン授業の開設について検討を行う。
- ・ルーテル学院大学等との連携の下で、単位互換制度を創設する。

Ⅱ－３－２ 専門教育 (１１計画)

Ⅱ－３－２(１) 人文学科キャリアイングリッシュ専攻

①英語のルーテルブランドの確立

- ・少人数教育による細やかな指導と教学 I R を生かした教育改善に基づき、実践的 4 技能(読む・聞く・書く・話す)の英語力を強化する。

②異文化理解とグローバルな視野及び人間力を有する人材の育成

- ・実践的英語力の強化による英語の教員免許状、文系の学びを生かした I T、秘書学等の資格取得を支援するとともに、自ら考え、行動する力と環境の変化に対応できるゼネラリストを育成する。

Ⅱ－３－２(２) 人文学科こども専攻保育コース

①保育・幼児教育プラスワンの専門的知識を持つ保育者の育成

- ・多文化保育のニーズという観点から英語 4 技能に優れた保育士・幼稚園教諭を育成する。
- ・保育の環境整備や子育て支援の重要性に対する深い理解を持った保育士・幼稚園教諭を育成する。

②保育・幼児教育プラスワンの技術と実践力のある保育者の育成

- ・保育現場と協働した体験学修やボランティア活動、研修・研究の機会を増やすことで、保育実践力のある保育士・幼稚園教諭を育成する。

Ⅱ－３－２（３） 人文学科こども専攻児童教育コース

①地域に根ざし、地域の人々と協働できる小学校教員の育成

- ・学生による地域貢献活動等を設定し、地域の課題を理解した上で、その解決に貢献できる人材を育成する。
- ・熊本県を中心とした郷土の素材を活用し、美術館・博物館等でのフィールドワークの機会を生かした郷土教育を充実させる。

②学校現場を想定した実践的な授業の充実

- ・実務家教員等による授業を通して、実践的な資質・能力を備えた人材を育成する。
- ・熊本県（市）教育委員会等との連携を密にし、学校現場の最新の動向を踏まえ、その諸課題に適切に対応できる人材を育成する。

Ⅱ－３－３（１） 心理臨床学科心理学コース

①公認心理師養成カリキュラムの充実による大学院教育への円滑な接続

- ・公認心理師になるうえで必要な知識・能力・技量を養うための本学独自の教育システムを開発する。
- ・実習施設を新規開拓し、公認心理師養成に十分な実習内容を学生に提供する。
- ・科目の特性に合った評価方法（ルーブリック、試験）と履修制限を導入して学習意欲を高めるとともに、適切なアセスメント・プランに基づいてアセスメントを実施して教育課程の効果を検証する。
- ・Society5.0に向けて情報活用能力の向上を意図してデータサイエンスや情報処理等の科目を導入する。

Ⅱ－３－３（２） 心理臨床学科特別支援教育コース

①幼児・児童・生徒の心に寄り添い、即時的対応力、マネジメント力を有した特別支援学校教諭の育成

- ・特別支援教育に係る学修の質を保証するとともに、特別支援教育卒の教員採用試験の受験率を高める。
- ・座学による知識と実習や療育支援ボランティアで得た経験をさらに活かして支援スキルを高めるために、特別支援にかかわる課外活動を拡充して学生に提供する。
- ・科目の特性に合った評価方法（ルーブリック、試験）と履修制限を導入して学習意欲を高めるとともに、適切なアセスメント・プランに基づいてアセスメントを実施して教育課程の効果を検証する。

Ⅱ－３－３（３）精神保健福祉コース

- ①当事者に寄り添い、多様な領域で包括的な相談支援を担える精神保健福祉士の育成
- ・精神保健福祉に係る学修の質を保証し、精神保健福祉士合格率を高める。
 - ・現場での福祉的支援の実際を想定した授業を展開し、座学を充実させるとともに、精神保健福祉に関わる課外活動を拡充して学生の支援スキルを高める。
 - ・科目の特性に合った評価方法（ルーブリック、試験）と履修制限を導入して学習意欲を高めるとともに、適切なアセスメント・プランに基づいてアセスメントを実施して教育課程の効果を検証する。

Ⅱ－３－４ 人文学研究科

- ①地域貢献と多職種連携への意識の高い科学的視点をもった臨床心理専門職の育成
- ・2022年度開設予定の公認心理師養成課程において、質の高い公認心理師を養成する教育システムを開発・検証する。
 - ・心理学における研究に関する科目を導入して科学者としての知識やスキルを教育する。
 - ・実習科目において具体的な基準に基づいた実習生の行動や態度について評価するとともに、多職種連携に関連した教育計画を組み、臨床実践スキルの質を担保する。
 - ・適切なアセスメント・プラン（成績、学生調査、修士論文評価、就職先評価等）を掲げて、公認心理師養成課程における学習成果及び教育効果を検証する。

ビジョンⅢ（学生の受入れ）：
**感恩奉仕の理念に共鳴し、“think globally, act locally”を
志す学生を応援**

**Ⅲ－１ 入学者選抜制度における中期戦略の策定
（大学基準５：学生の受入れ） （３計画）**

- ① 高大接続改革実行プランにおける大学入学共通テストへの対応
 - ・ アドミッションポリシーに合致する学生の受入れを見据え、大学入学共通テスト利用選抜のあり方について検討する。
 - ・ 本学における大学入学共通テストへの対応状況について、ホームページ等で迅速かつ正確な周知を行う。
- ② アドミッション・ポリシーを基準とする選抜方法・入試内容の点検
 - ・ アドミッションポリシーに合致した入学者を選抜するにふさわしい選抜方法・入試内容になっているか、絶えず点検を行う。
- ③ 公認心理師養成に対応した大学院生の受入れ（人文学研究科）
 - ・ 公認心理師の資格取得及び就職ニーズから、入学定員を検討する。また、志願者等の動向に応じて長期履修制度の検討を行う。

Ⅲ－２ 入学定員確保策（大学基準５：学生の受入れ） （３計画）

- ① 戦略的な学生募集の展開
 - ・ 18歳人口の減少傾向を分析し、かつ、地域別の入学志願者数・入学者数の傾向から、熊本県内の重点強化地域を設定するなど、戦略的な学生募集を展開する。
- ② 高大連携の強化
 - ・ 併設校であるルーテル学院高校とのCampus Visit&Try (CVT) 事業の促進、また、九州学院高校その他の特色ある高校との連携を強化するとともに、入学予定者の出身校と協力して入学前教育の充実を図る。
- ③ 各種媒体による発信力の充実・強化
 - ・ 大学案内、ファクトブック、ホームページ・SNS等の各種媒体を充実・強化し、本学の特色を受験生やその保護者等にわかりやすく発信する。

ビジョンⅣ（学生支援）（就職・進路支援・学修支援・生活支援）： 退学率0%、学修・生活満足率100%、就職・進学率100%、 学生の迷いとやる気に寄り添う支援

Ⅳ-1 キャリア支援・就職支援（大学基準7：学生支援）（2計画）

①キャリア教育の充実

- ・学生に将来のキャリアを考える機会を提供し、希望するキャリアを実現できるよう、企業、自治体、卒業生等によるキャリア教育（正課外を含む。）等の充実を図る。

②学生一人ひとりのニーズに応じたきめ細やかなキャリア支援・就職支援

- ・学生が異文化圏体験学修、グローバル志向企業へのインターンシップ等を通じて身に付けた資質・能力を活用できるようなキャリア支援を拡充する。
- ・熊本県内の企業等への就職を活性化し、“くまもと”の地域に貢献する。
- ・協定校であるルーテル学院大学と連携して関東における就職を希望する学生に対して支援を行う。
- ・学生がその後の人生において豊かなキャリアを重ねられるよう、就職支援、卒後支援を強化する。

Ⅳ-2 障がいのある学生への支援（大学基準7：学生支援）（1計画）

①学内外の個人及び組織との連携・共通理解に基づいた修学支援

- ・他大学や学外の諸機関と連携した支援等を通じて、障がいのある学生に対する修学支援及びキャリア支援の体制・内容の充実を図る。
- ・学生サポーターを安定的に確保するとともに、支援の質を向上させる。
- ・障がいのある学生が充実した学生生活を送れるよう、教員、学生、地域住民等を対象にした講演会等を実施し、共通理解の醸成を図る。

Ⅳ-3 学修支援・生活支援（大学基準7：学生支援）（3計画）

①退学率ゼロプロジェクトの推進

- ・教職員が一体となって行う「学生支援懇談会」の機能の充実等、学生の迷いとやる気に寄り添う支援を行い、退学率を低く抑える。

②ラーニングコモンズの充実

- ・学生の主体的学習の場として、ラーニングコモンズの積極的な活用を展開する。

③学生の意見を反映させた生活支援の充実

- ・Students' Voice委員会、自治会等を通じ、学生の意見を反映させた生活支援の充実を図る。

ビジョンV（研究）：各研究組織の研究力を強化し、多様な視点から地域社会にアプローチする特色ある研究を推進

V-1 学科等の垣根を越えた研究の推進による新たな拠点の形成（2計画）

①研究事業の推進、新たな研究拠点の構築・展開
・研究ブランディング事業推進本部を中核として、「フィンランドの社会」をテーマとする研究等、新たな研究拠点を構築・展開する。

②現場と連携した異職種協働研究の強化
・英語教育・保育・教育・福祉等の現場と協働した研究や異職種協働の研究を強化する。

V-2 学内外での共同研究の推進（3計画）

①大学間連携による共同研究の推進
・研究分野の類似した国内外の大学と連携協定を結んで、共同研究を推進する。

②大学院生及び学部生の研究力を引き出す支援の強化
・指導教員による支援の下で、大学院生及び学部生による研究を活性化し、その研究力強化を図る。

③研究施設の充実・展開
・こころとそだちの臨床研究所の在り方を見直し、学科を超えた研究施設として積極的な活動を展開する。

V-3 研究支援の強化（2計画）

①研究費の戦略的配分
・科学研究費補助金等の獲得・申請者に対するインセンティブの強化、共同研究費制度の策定・運用、教育改革・研究奨励制度の奨励金の拡充等、研究費を戦略的に配分し、効果的に活用する。

②研究環境の整備
・科学研究費補助金等の競争的資金の獲得強化のための研究休暇制度等の創設・戦略的活用、留学制度の利用促進、研究室の整備等により、教員が研究実績を積みやすい環境を整える。

ビジョンVI（国際感覚）：
九州ルーテル学院大学の特色を生かして異文化を理解し、
国際的視野で“くまもと”に貢献できる人材を育成

VI グローバル化に関する目標

VI-1 グローバルセンターの活性化（2計画）

- ①グローバル化に対応したプログラム、公開講座等の開設
- ・国際的視野を持って“くまもと”で活躍し、“くまもと”に貢献できる学生を育成するため、異文化理解を深め、地球環境や平和、人権などに関する世界共通の課題を自分事として考える授業や講座を実施する。
 - ・“英語のルーテル”という本学の特色を生かし、地域の外国人と英語でコミュニケーションできる場や海外の文化を学ぶ公開講座を提供する。

- ②グローバルセンターの整備・充実
- ・異文化体験学修等の留学相談やコミュニケーション等の場としてグローバルセンターの整備・充実を図る。

VI-2 学生の派遣（1計画）

- ①異文化圏体験学修プログラムの充実
- ・英語圏以外の大学、教育機関等との国際交流等を含め、留学先や留学プログラムを新規開拓し、異文化圏体験学修プログラムの充実を図る。
 - ・協定校であるルーテル学院大学と連携し、単位互換制度の一環として新たな海外ボランティア活動のプログラムを開設し、学生が国際社会への奉仕を体験できる機会を拡充する。

VI-3 外国人留学生の受入れ（2計画）

- ①外国人留学生の受入れ促進
- ・外国人留学生の受入れのためのシステム（入試制度、交換留学制度等）を再構築する。

- ②英語表記の充実
- ・教務委員会及び入試委員会と連携して、外国人留学生向けに本学ホームページの英語表記を充実させる。
 - ・外国人留学生を踏まえたシラバス、学生向け案内文書等の日英表記化を実施する。

ビジョンⅦ（地域貢献）：
大学の知的・人的資源を再整備して “くまもと” の
課題解決に協力し、熊本地域の発展に貢献

Ⅶ 社会連携・社会貢献に関する目標（基準9：社会貢献・社会連携）

Ⅶ-1 地域社会の知的基盤としての地域貢献活動の充実（3計画）

① 地方自治体等への委員・講師の派遣等の拡充

- ・ 本学の知的資源を活用した地域貢献活動として、地方自治体（教育委員会、学校、社会福祉協議会等を含む。）等への委員、講師、対人援助職の派遣等を拡充し、社会貢献活動の更なる活性化を図る。

② 産学官連携事業の実施

- ・ 研究ブランディング事業推進本部を中心に、地域社会の知的基盤として行政機関、熊本県内企業、社会福祉法人、NPO法人等と産学官連携を実施する。

③ 公開講座や講習会等を通じた社会人の学びの場の創出

- ・ 地域連携推進センターと連携して授業開放を推進するとともに、社会人（本学卒業生及び修了生を含む。）の学び直しに対するニーズに応える公開講座や講習会等を開設する。

Ⅶ-2 学生（学生団体（サークル）を含む）及び教職員による交流や支援の活性化（2計画）

① 大学諸施設を活用した地域との交流促進

- ・ ボランティアセンター、グローバルセンター、大学チャペル等における地域に向けた活動を更に充実し、地域との交流を強化する。

② 学生団体等への支援強化による諸活動の活性化

- ・ 本学の特色である教育・保育活動を展開する学生団体等による障がい児・者支援、子ども支援等を更に活性化する。

ビジョンⅧ（経営基盤）：
永続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

Ⅷ－１ 大学運営（大学基準１０：大学運営）

Ⅷ－１－１ 経営ガバナンスの強化策
（教員・教員組織（基準６：教員・教員組織））（２計画）

①教員・教員組織の編成

- ・教員人事方針及び教員組織の編制に関する基本方針に基づき、学科再編等の将来計画を見据えて教員を配置する。
- ・本学の教育研究の目的・方針に沿い、かつ、時代のニーズに対応できる教員組織を編成する。

②教員人事方針に基づく適切な人事管理

- ・人件費等を踏まえ、教員の配置計画（職位・教員数等）について、適切に実施できる仕組みを構築する。

Ⅷ－１－２ 経営ガバナンスの強化策（事務部門）（３計画）

①経営ガバナンス体制の確立と安定した経営基盤の構築

- ・各部門の連携を強化し、学院全体の協力体制を構築する。

②職員の資質・専門性の高度化と質の高い教職協働体制の構築による学修支援力の強化

- ・スタッフ・ディベロップメントの推進により、資質・専門性の高度化を図る。
- ・階層別・業務別研修の受講、OJTによる実践を通じて、実務能力・マネジメント力、コミュニケーション力等の向上を図る。

③組織のあるべき姿を見据えた採用・人材育成・職員の配置

- ・キャリアプランを策定し、各職位のあるべき姿を明確化し、能力及び業績に対する適正な人事評価を行う。
- ・国際交流、異文化体験等グローバルな視野を持って対応できる人材を育成する。

Ⅷ－１－３ 経営ガバナンスの強化策（中期目標・中期計画実現のためのPDCA体制）（１計画）

①学長補佐体制の整備と内部質保証推進会議の実質化

- ・副学長及び学長補佐を設置し、学長の教学ガバナンスを強化することにより、教育改革、組織再編等の課題に対応する。
- ・学長の下に設置した内部質保証推進会議において、教育の質保証を始めとする教育研究活動等を推進する。

Ⅷ－１－４ 経営ガバナンスの強化策（自己点検・評価及び当該状況に係る情報の積極的な公開に関する目標）（２計画）

①自己点検・評価活動の実質化

- ・自己点検・評価実施要領を策定し、中期計画に係る年度ごとの進捗状況を定期的に確認する仕組みを構築する。
- ・教育研究活動の状況等に関する情報を、積極的かつ迅速に公開する。

②外部評価の効果的な活用と適切な対応

- ・外部評価委員会による教育研究活動の評価を通じて、評価の客観性・公平性を担保し、開かれた大学運営を行う。
- ・教員養成評価機構による教職課程の認定評価受審等を通じて、教職課程の改善・充実を図る。

②大学評価（認証評価）への対応（2020・2021年度）



②第3期認証評価の受審（2022年度）



②大学評価（認証評価）への対応（2023年度以降）

Ⅷ－１－５ 経営ガバナンスの強化策（ルーテルブランドの確立）（２計画）

①学院創立百周年（2026年度）に向けて、大学の魅力を発信する「周年事業」の実施

- ・周年事業として九州ルーテル学院大学ホームカミングデー（仮称）を定例化し、大学の魅力の発信、ルーテルブランドの構築につなげる。

②卒業生や旧教職員とのネットワークの充実

- ・同窓会等との連携の下、卒業生や旧教職員とのネットワークを充実させ、卒業生や旧教職員にも支持される大学づくりを行う。

Ⅷ－２－１ 教育研究の実施体制 （２計画）

① 入学定員（収容定員）の点検・教育研究組織の充実

- ・教育研究組織や入学定員（収容定員）の点検を行い、２０２１年度までに既存の教育研究組織の充実に向けた改組検討を行う。
- ・付置施設・各センター等について、社会の動向等を踏まえ、新設・統廃合等を含め、随時見直しを図る。

② 専門分野の融合

- ・地域社会のニーズや入学希望者の期待に応えるため、学科・専攻（コース）間の専門分野の融合を図る。

Ⅷ－２－２ 付置施設等の整備・充実 （４計画）

① 「知の拠点」としての図書館の充実

- ・学生のニーズに応じたサービス、施設設備の充実、蔵書の選択、イベントの充実などにより、図書館の利用を促進する。

② 「こころとそだちの臨床研究所」及び「ジャニス」の再編

- ・公認心理師養成大学院の開設に合わせて、「こころとそだちの臨床研究所」及びカウンセリングルーム「ジャニス」の再編を行う。

③ 「教職・保育支援センター」における教職・保育職を志望する学生の支援

- ・教務委員会との連携の下、教職・保育支援センターを中心に、教職・保育職を志望する学生の学修支援（特に実習支援）を充実させる。

④ 黒髪乳児保育園における保育の充実

- ・附属保育園である黒髪乳児園と大学との密接な連携・協力体制の下で、地域に根ざした保育を更に充実させる。

Ⅷ－３ 財務（大学基準１０：大学運営・財務）

Ⅷ－３－１ 財政基盤の安定化（３計画）

①学院の中期財政計画の適切な運用

- ・教育研究経費、人件費、管理経費の構成比率（２０％）の適正化を図る。

②中長期視点からの特定資産の着実な積立

- ・減価償却引当特定資産として、毎年度５００万円を積み立てる。

③外部資金獲得のための取組強化

- ・私立大学等経常費補助金、私立大学等改革総合支援事業補助金等の獲得により、財政基盤の安定化を図る。

Ⅷ－３－２ 寄付金その他の自己収入の増加（２計画）

①寄付金その他の自己収入の増加策の検討

- ・学院創設１００周年に向け、寄付金その他の自己収入の増加を図る。

②後援会の組織化・活性化

- ・後援会組織を整備し、保護者の本学の教育研究環境等への関心を高め、外部資金の増収につなげる。

Ⅷ－３－３ 業務運営の改善・効率化による経費の抑制（１計画）

①業務運営の改善と経費節減

- ・業務を分掌し、業務内容に応じた適正な人員配置を行う。また、必要に応じて業務運営を見直す。
- ・各部門の人件費総額の目標を設定し、時間外労働の事前申請による縮減を実現する。

ビジョンⅧ（経営基盤）： 経営基盤を支える取組

Ⅷ－４ 教育研究環境等（教育研究環境整備計画）（基準８：教育研究等環境）

Ⅷ－４－１ 施設・設備の整備・活用等（１計画）

- ①快適で学修しやすいキャンパスづくり
 - ・キャンパスマスタープラン（仮称）を策定し、学生等の要望を踏まえた快適なキャンパスづくりを行う。
 - ・バリアフリーの学修・生活環境を整備する。
 - ・図書館・情報支援室等の学修環境を整え、施設面での充実を図る。

Ⅷ－５ 男女共同参画の推進（１計画）

- ①男女が共に活躍する職場環境の整備
 - ・教職員がワークライフバランスの取れた生活を安心して送ることができるよう、就労環境を整える。
 - ・教職員の採用、昇任、管理職への登用等の際、男女比が適正になるよう留意する。

Ⅷ－６ 危機管理・法令遵守

Ⅷ－６－１ 危機管理体制の整備と的確なリスク管理・労務管理の実施（１計画）

- ①リスク管理・労務管理体制の万全な整備・周知
 - ・危機管理（大規模災害時の対策、減災・防災対策、ハラスメント防止対策等）の体制及びマニュアルの整備に取り組み、全教職員に周知する。
 - ・情報セキュリティ対策として、学院全体のセキュリティ・ポリシーを策定する。
 - ・働き方改革関連法に基づき、就業規程、ハラスメント規程等を見直し、生き生きと働くことのできる環境を整える。

Ⅷ－６－２ 安全管理（１計画）

- ①安全管理体制の整備
 - ・防災・防火・防犯体制を整備し、学生・生徒・園児及び教職員の安全と安心を確保する。

Ⅷ-6-3 法令遵守 (1計画)

①法令遵守の徹底

- ・教育研究活動等に関する業務遂行の際、法令、学内規程等を遵守するよう、組織的に取り組む。
- ・研究不正、公的研究費不正使用の対策として、マニュアルを整備し、周知する。

中期目標・計画、年度計画の策定・評価の方針

●中期目標・中期計画の設定

- (1) 大学基準協会の基準ごとに項目を設定する。
- (2) (1)の項目に含まれない研究、グローバル化、ICT化、情報公開、業務運営の改善・効率化等を追加する。
- (3) 理念・目的に「機能別分化」を追加し、強み・特色をさらに打ち出す。
- (4) 可能な限り、達成時期、数値目標等を明示し、学内外からも計画(取組)の成果等が可視化できる目標・計画とする。
- (5) 学部(学科、専攻・コース)、研究科、付置施設ごとに中期計画の達成に向けて特色のある取組を策定し、実施する。

●年度計画の作成と評価

- (1) 各年度のアクションプラン(行動計画)として毎年度作成し、評価を行う。
- (2) 前年度計画の進捗状況等を踏まえて、次年度の計画を策定する。

●その他

- (1) 本ビジョン及び中長期計画の内容について周知を図るため、「自己点検・評価実施要領」を作成し、教職員に配付することにより次期ビジョン等の達成に向けて理解と協力を深める。
- (2) 3つのポリシーの見直し等による学則等関係規程の改正にも対応する。



九州ルーテル学院大学
KYUSHU LUTHERAN COLLEGE

第2期中期目標・中期計画（ビジョン2020）

～地域に夢がある、世界に学びがある、夢と学びをつなぐ大学を目指して～

発行 2021年1月1日

学長室会（第2期中期計画策定WG）・学長室